

「令和」は「想像力欠如」の結果か

はたまた戦前回帰＝復古願望の表れか？

金融・労働研究ネットワーク 田中均

新元号祝賀ムードに「異論をはさむな」というけれど

新元号が発表されて、テレビは歓迎とお祝いの声であふれました。私も4月1日の午前中、皆さんがテレビのところへ行ったり来たりするので、どんな元号になるのかと興味がありました。新元号が「令和」だと発表された後、どのチャンネルも歓迎の言葉にうめられるのに違和感を抱きました。菅官房長官が「令和」の文字を掲げている姿に違和感がさらに強くなりました。官房長官が「令和」の文字を掲げている映像は、東京新聞の望月衣塑子記者に「事実誤認」に基づく質問が多いと「警告」が出された、官房長官会見の映像と重なります。

この「警告」は、新聞労連が抗議の声明を出して、大きな問題となり3月14日には新聞労連やMIC（マスコミ文化情報労組会議）が官邸前で抗議集会を開催しています。（関連記事は右をクリック [記者会見での質問妨害・取材制限を許さない](#)）。望月記者への「警告」の原因となった「事実誤認」の質問には、その直前に強行された辺野古への埋め立て強行に関する質問があったと報じられています。3月14日の官邸前抗議集会では、現役の記者の方たちが、「都合の悪い質問を『事実誤認』と決めつけて、正当な取材を封じようとするもの」と批判していました。「令和」の文字を掲げるのを見た時、「国民はお上の命令に和して従え」という、安倍政権の願望を読み取り批判する声が出て不思議はないと感じました。

単なる「想像力の欠如」か

そんな感想を口にしたところ、「新元号のお祝いムードにあえて異をはさむことはない」と言われましたが、昨日当ホームページで紹介した「5・3 憲法集会のお知らせ」の中で、一言だけ新元号への懸念を書きました。同じような懸念が他からも出ているようです。「週刊ダイヤモンド」を発行しているダイヤモンド社のビジネス情報サイト「ダイヤモンド・オンライン」にノンフィクションライターの窪田順生氏が「『令和』は突っ込みどころ満載、日本政府は“想像力”が足りない」という論評を執筆、掲載しています。<https://diamond.jp/articles/-/198757>

窪田氏は、「ほとんどの日本人は『令』の文字から『命令』『辞令』『司令』などを連想する」と指摘。戦時中の標語「笑顔で受け取る 召集令」などを紹介し、「『令和』から戦時中の苦しい時こそみんなで『命令』に従え。従うものに平和が訪れる。つまり、『令和』という言葉の響きは、戦前、戦中の国民統制を連想させてしまう恐れがある」と説明。「そういうリスクな元号」を、「『一億総活躍』なんて戦時スローガンを思わせる掛け声を好んで使い、事あるごとに右傾だ、国粹主義だと言われる首相が掲げる」ことのマイナスの影響を、政権が予測できなかったとすると、それは想像力の欠如のなせる業だと批判する。

次の時代がどうなるかは自公政権独走を許すか否かにかかっている

窪田氏の批判はここで止まらない。次のような首相自身の言葉「かつては何年もかけてやっと実現するレベルの改革が、近年は国民的な理解の下、着実に行われるようになってきた…。そうした中で、次の世代、次代を担う若者たちが、それぞれの夢や希望に向かって頑張っていける社会、一億総活躍社会をつくり上げることができれば、日本の未来は明るい、そう確信しています」をあげて、単なる想像力の欠如ではなく現政権の本音がそこに反映されたのではないかと指摘して次のように述べています。

「『これからの日本は凄まじい変化があるけど、それを乗り越えないことには明るい未来はありませんよ。それを皆さん覚悟して、甘っちょろいことは言わないでね』という思いを『令和』という文字に込めた、と言ってくれた方が、よほどストンと腹に落ちる」と。